四賀地区 図書だより

令和４年１０月１日号

発行　四賀公民館図書視聴覚委員会
（事務局　TEL 64-3112）

「ひとみキラキラ　本にどきどき」

2022「こどもの読書週間」標語

戦後間もない 1947 年（昭和 22 年）に「読書の力によって、平和な文化国家を創ろう」という決意のもと第１回の「読書週間」が開催されました。それから 76 回も続いて今年も「文化の日」を中心とした２週間（10 月 17 日から 11 月９日まで）が読書週間とされています。

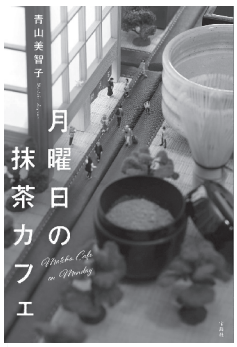
今回の図書だよりでは、いつも図書室をご利用いただいているペンネーム「シャール」さんに読書について寄稿いただき、併せておすすめ本の紹介もしていただきました。

良いことも、悪いことも、色々な感情を感じる毎日。今を忘れ別世界を体験してみたいと思いませんか？簡単に体験出来る方法があります。

私が思う方法は…本の世界に入ること。

本と言っても、文章だけが書いてあるのが本と決めず、絵本、図鑑、写真集などなど。興味あるジャンルのものから１ページめくれば世界が広がります。

最近読んだ本でオススメを紹介します。



①『月曜日の抹茶カフェ』　青山美智子

カフェに来た人たちの各々の物語。一章ずつ主人公が変わるので新鮮な気持ちで読めます。主人公は変わるけど、どこかに繋がりがある物語です。この作者さんの本は、実際にこんな場所あれば訪れてみたいと思ってしまうところが舞台になってます。抹茶カフェもその一つ。

『お探し物は図書室まで』もオススメです。

②『マリアビートル』　伊坂幸太郎

新幹線のなかで繰り広げる物語。登場人物が多数いてハラハラドキドキものです。

なんと、今年このお話し、ハリウッド映画化されるとのこと。映画見たい !!

この作者さんの本は多数映像化されてるので、映像作品から見て、その後、原作本を読むのもアリですよ。

③『りんごかもしれない』　ヨシタケシンスケ

これは絵本です。りんごがあるけどホントにりんごなの？と考えるとこから始まります。りんごはりんごでしょって考えてしまうけど、そう考えない作者さん。発想がスゴイと思ってしまいます。

大人の皆さんも絵本読んで見ませんか？

私は本を読んで、色々な感情を体験してます。励まされたり、勇気をもらったり。

あなたにとって素敵な本に巡り会えますように。

シャール

新着図書・おすすめ図書のご案内

新着図書

児童書

『エリック・カールのえいごがいっぱい どうぶつあつまれ!』 エリック・カール　絵
『かみなり』 武田 康男　監修
『だいすきなうみときみと』 バルー　作
『ぼくは川のように話す』 ジョーダン・スコット　文
『まるてんいろてん』 中辻 悦子　さく

一般書

『絞め殺しの樹』 河﨑 秋子　著
『子宝舟　きたきた捕物帖２』 宮部 みゆき　著
『スタッフロール』 深緑 野分　著
『小さき王たち　第１部』 堂場 瞬一　著
『海蝶1.2』 吉川 英梨　著
『居場所がないのがつらいです』 髙橋 源一郎　著
『サスティナブルに暮らしたい』 服部 雄一郎・服部 麻子　著

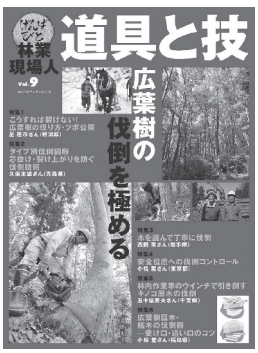
おすすめ本

『夜に星を放つ』（直木賞受賞作） **窪 美澄　著**

５編の短編から成る。…雲が途切れて、またベガが輝き出す。僕はそれを掌でつかむようにして口に運び、ごくりと飲み込んだ。星はもう僕の中にある…（『星の随に』より）かけがえのない人間関係を失い傷ついた者たちが、再び誰かと心を通い合わせる事はできるのか…。心の揺らぎが輝きを放つ珠玉の作品集。５編とも、夜空、星にどこかで繋がる

『両手にトカレフ』 **ブレイディ みかこ　著**

ブレイディみかこ初の小説。前作の『ぼくイエ…』では書かなかったイギリスの「子どもの貧困」をとり上げ、社会の陰の部分を白日の下に晒す。タイトルの『両手にトカレフ』は、14才の主人公ミアの作ったラップのリリック（歌詞）で、貧困の重い現実の中に置かれたミアの激しい魂の叫び。リリックを書くことにより、ミアの世界が少しずつ変わっていく…。
※　ところで、日本の子どもの貧困率が世界7位、という現実をご存じだろうか？
　　OECD加盟34ヶ国中（日本財団の調査）



『道具と技 広葉樹の伐倒を極める』
全国林業改良普及協会　編

針葉樹と比べると安全に倒すのが難しい広葉樹。偏心木を狙った方向に倒すには。芯抜けや裂け上がりを防ぐには。
全国各地の達人の仕事現場から技を学ぶ。

編集後記

エリザベス女王を偲んで
　ビートルズの一番短い曲は Abby Road の最後に付録のように収録されている「Her Majesty(女王陛下)」です。可愛らしい曲ですが歌詞はどこかの国なら「けしからん！」ってなりそう。でも王室からのお咎めは一切なし。それどころか即位 50 周年記念のコンサートでポールが生演奏しています。